

国語科学習指導案

富田林市立小金台小学校

指導者 中窪 翔

1. 日時

令和4年 12月1日(木) 第5校時(13:25~14:10)

2. 学年・組

第6学年1組(30名)

3. 単元名 教材名

すぐれた表現の効果を考えて、登場人物の心情を読もう「川とノリオ」 教育出版・6年

4. 単元目標

- ・比喩や反復などの表現の工夫について気づくことができる。【知(1)ク】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【思判表C(1)オ】
- ・言葉がもつよさを認識し、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気づこうとしている。【主】

5. 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、戦時中から戦後にかけての物語である。ノリオの成長が、川との関わりを示しながら描かれている。幼少期は母と一緒に川とたわむれているだけだったノリオも、だんだんと成長していくうちに、戦争の影響を感じ始める。空を飛ぶ爆撃機、突然の母の死、祖父と二人だけの生活の始まり、父の戦死の知らせ、そして、父親とたわむれる友だちとの違いなどを感じながら、ノリオは川とともに日々を送っている。

川は移り変わらないものの象徴であり、人は移り変わっていくものとして描かれている。

(2) 児童観

本学級では、自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる一方で、自分の楽しみや考えを優先するあまり周囲が見えなくなってしまう児童も大勢いた。そこでペアやグループでの交流を積極的に取り入れ、自分の考えを他者に伝えることでお互いを認め、伝え合える関係づくりを進めてきた。その成果が少しずつあらわれ始めている。授業においても自分の思いや考えをまとめて伝えようとする姿が見られ、主体的に学習に取り組む雰囲気が醸成されてきた。しかし、そうやって伝え合うことで考えを広げることは多く見られるようになったが、その広がった考えの中で焦点化し、深めていくことは依然として難しい。また、様々な考えに触れることで新たな気づきも生まれるが、その気づきを通して自身の考えを深めたり、自身の行動を振り返ったりまでは至っていない。そこで、論点を整理させながらめあてに沿った話し合い活動を展開するように意識させると共に、対話の中で目的意識をもちながらも相手の言葉に立ち止まって自分の言葉で

次へとつなぐ姿勢を大事にできる話し合い活動にしたい。

本単元を通して、対話の中で一人ひとりが考えを広げ深めながら伝え合うことで、学級全体の学びを深めたいと考えている。

(3) 指導観

① 児童の読みを深める対話

今回、本市が扱っていない教育出版の「川とノリオ」を教材として学習を進める。1学期の未来科(総合)の学習で平和学習を行った際、多くの児童が戦争の悲惨さに心を痛み、平和への思いを新たにした。そこで戦時中の物語である本教材で学習を進めることで、児童に今の生き方(生活)を振り返させ、さらに学びを深められる教材であると考えた。さらに、本教材は登場人物の心情が直接的に描写されていないことから多様な考えが生まれやすい。それらの考えが話し合い活動を通して収斂されていく中に学びの深まりがあり、本学級の児童の課題に効果的に作用すると感じた。以上のことから、今回「川とノリオ」を教材として扱うことを決めた。

また、児童同士の対話の中で読みを深めるためには、考えを揺さぶる「問い」が必要であると考え。だからこそ、児童には、常に他者の考えに「なぜ」という問いをもつことが自分の読みを深める手立てにつながることを意識させている。しかし、問いをもてば読みが深まるわけではない。質問を入れるタイミングを逃してしまったり、めあてから外れてしまう質問になったりした場合は話し合い活動が上手く進まない。これまでもそれが原因で考えが深まりきらなかったことがある。したがって、本単元では自身の考えと他者の考えを意識するためにシンキングツールを使うことでそれぞれの考えを可視化し、めあてに沿った「問い」を投げかける一助にする。さらに、「問い」を評価することで価値づけていき、児童同士の対話の中で読みを深めるために「問い」が効果的に働くような対話をめざしたい。

② めあてと振り返り

本学級では、どの授業においても、振り返りを行わせる際に何を書かせたいかを意識して授業を考えてきた。振り返りから後ろ向きに授業や単元を考えることで、何を学ばせるのかを明確にして学習計画を立ててきた。その中で、教師が学習の方向を定めるだけでなく、児童自らが主体的に取り組む話し合い活動を取り入れることで目の前の課題に対して粘り強く取り組む姿勢を高めたいという思いから対話に重きを置き、話し合い活動を進めてきた。しかし、児童だけで話し合いを進めると、なかなか考えが深まらず、ただ意見が広がっていただけの話し合いにとどまってしまうことが多々あった。そこで、本単元では、めあてや話し合いのテーマが話し合いの方向性であると考え、めあての言葉にもこだわってめあてを設定していきたい。そうすることで、話し合い活動の論点が焦点化され、児童がより主体的に学びを深めることにもつながると考える。

さらに、振り返り活動では児童の学びを見取ると共に、授業自体の評価する指針として考えたい。児童の学びの見取りでは、自身の考えの更新や変容を表現することで、自身の学びを実感できるようにしたい。また、授業自体の指針として評価を行い、次時以降の授業に生かしていく。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比喩や反復などの表現の工夫について気づき、それを基に自分の考えを書いている。(知(1)ク)	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことを基盤に、登場人物の思いや作品から感じたことを自分の考え方や生き方と結びつけて考えている。(思C(1)オ)	・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、めあてに向かう学習の見通しをもって物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

7. 単元計画(本時7/8)

時	○学習活動	◇指導上の留意点	・評価規準
1	○学習課題の設定や学習計画の確認をし、『川とノリオ』を通して考えていくことの見通しをもつ。 ○「川とノリオ」の教師の読みを聞き、初発の感想を書き交流する。	◇戦争の恐ろしさ、その時代背景をしっかりとさえる。 ◇直接的な表現はなくとも、川の様子や色、情景描写によってノリオの心情が表されていることに注目して、感想を書く。	・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。【知技】 ・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。【主】
2	○(一)(P.84) 川の存在について考える。	◇川とノリオの関係について考えさせる。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【思判表】
3	○(二)「早春」 (P85~86.L11) 出征する父ちゃんと見送る母ちゃんについて考える。	◇叙述の中でも川の様子、色、情景描写に注目させ、ノリオの母ちゃんの心情について考えさせる。	
4	○(三)「また早春」 (P86.L12~P90.L11) 川とノリオと母ちゃんとの追いかけてこの様子から「幸せな二オの神様」について考える。	◇川の様子、色、情景描写の叙述から川とノリオの関係に注目し、無邪気に遊ぶノリオの心情について考えさせる。	
5	○(四)「夏」 (P90.L12~P92.L3) この物語の中で唯一出てくる鍵括弧「B29…」について押さえる。 ○(五)「八月六日」 (P92.L4~P95.L2) 母ちゃんを待つノリオと川に	◇ノリオがこの日に失ったものは何かについて注目しながら、不安なノリオの心情について叙述を基に考えさせる。	

	ついて考える。		
6	○(六) 「おぼんの夜(八月十五日)」 (七)「また秋」 (八)「冬」 (P95.L3~P97.L9) 八月六日以降の、ノリオとじ いちゃん的生活や、二人の 心情について考える。	◇叙述の中でも川の様子、色、 情景描写に注目させ、母ちゃ んを失い、じいちゃんの悲しみ に触れたノリオの心情につい て考えさせる。	
7 本 時	○(九) 「また、八月の六日が来る」 (P97.L10~P100 終わ り) 母のいないさびしさに耐え ながら力強く生きていくしか ないノリオの現状と気持ちを 考える。	◇叙述を基に母を失っても強く 生きようとするノリオの心情の 揺れについて考え、この時代を 生きた人々の思いに迫らせる。	
8	○これまで学習したノリオの心 情を通して自分の考えの更 新・変容について捉え、生き 方についてまとめる。	◇ノリオの心情に触れ、どのよ うに「今」を生きるかを考え、交 流させる。	・「読むこと」において、文章を 読んでまとめた意見や感想 を共有し、自分の考えを広げ ている。【思判表】

8. 本時の目標

ノリオの心情を読み取り、作品から感じたことをまとめることができる。

9. 本時の判断基準

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する子どもへの支援
話し合いを通して、作品から感じ たことを自分の生き方(生活)に 結びつけて、ノリオの心情を表現 できている。	話し合いを通して、作品から感じ たこと(ノリオの心情、生き方)を ふり返りの中で表現できている。	ノリオの心情を想像させ、作品か ら感じることを表現させる。